

令和7年7月17日(木) 政策推進課

八戸市まちの魅力創生 ネットワーク会議

令和7年度第5回（5回/8回）

01 これまででた取組案

魅力
発信

人材
育成

居場所

1

実現できたこと

美術館を創作活動の場に

中心街で野外映画会、ゲーム投影

若者限定！月1回マチニワ開放で
表現の場を

分からないことがSNS上で聞ける
仕組み

帰省の際は、友人も一緒、クーポン
で八戸を知る

実現できていないこと

実現できそうなこと

八戸の魅力動画コンテストの実施

八戸で楽しんでいる人を八戸版ロールモ
デルとして、楽しみ方を発信

ライフステージ別でオススメの八戸
のスポットやお店の紹介、休日の過ごし
方の発信

プル型の発信からプッシュ型の発信へ！

実現に時間がかかりそうなこと

コミュニケーション道場

メンター（指導者、助言者）養成

出会いの場（共通の趣味、サークル）
をつくる

八戸版ラウンドワン バスケット、卓球、ス
ケボー、BMXなどができる場所をつくる

長根公園をくつろぎスポットに！～桜、イルミネー
ション、芝生や階段を利用してY Sアリーナの外観
が眺められる～

体育施設を定期的に開放しSNSで発
信！「来週はここで卓球を！」

01 これまででた取組案

交通

若者
支援

人材
育成

就業
環境

2

実現できたこと

子どもタクシー制度で移動が簡単に

行政サービスや公共施設のあり方などを若者で考える機会の創出
(市役所若手職員も参加)

実現できていないこと

実現できそうなこと

バスとライドシェアのいいとこどり！エリアにわけた八戸版ライドシェア

ラフに異業種、多世代、肩書が関係ないごちゃまぜのパーティを定期開催

単身で住む若者の住まいの補助

団地の1階をコミュニティゾーンにする

実現に時間がかかりそうなこと

歓送迎会シーズン、忘新年会シーズンには夜間バス

「1日よくばりパック」：観光、食事情報、公共交通をAIで簡単ナビゲート

小規模や短期間でも何かをやってみたい若者へ安価で出店できるような場所

01 これまででた取組案

市民
活動

スポーツ

文化

就業
環境

3

実現できたこと

伝統芸能そのものを知る機会を増やす

施設をスマートロックとキーボックスで管理

デジタル勉強会、体験会 デジタル人材の育成

実現できていないこと

実現できそうなこと

祭り部、三社大祭部、えんぶり部など

Z世代応援課の設置

文化・スポーツ団体の活動状況や申込み方法が一目でわかる

八戸市市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいぐ」をもっと身近に

使用状況のイマをアプリで管理

実現に時間がかかりそうなこと

回覧板のデジタル化

若い世代同士のコミュニティ×町内会

01 これまででた取組案

大学

人材
育成

就業
環境

4

実現できたこと

八戸と学生をつなげる糸電話

生涯学習や学び直し、スキルアップ
の講座の実施

実現できていないこと

実現できそうなこと

休みたいときに休みを取れる環境の普及

複数の企業の合同研修会の実施

休日のこどもの預け先の充実

地域内同期が集まる限定イベントの実施

市役所でお祭り休みを実施。8/1と2/17は窓口を
残して市役所を休む

実現に時間がかかりそうなこと

中心街への大学キャンパス設置

公立大学を八戸へ

副業を支援するための金融教育サポート
の実施

お祭り休暇を採用した企業に対して何かし
らの支援等の実施

01 これまででた取組案 まとめ

5

実現できたこと

実現できていないこと

実現できそうなこと

実現に時間がかかりそうなこと

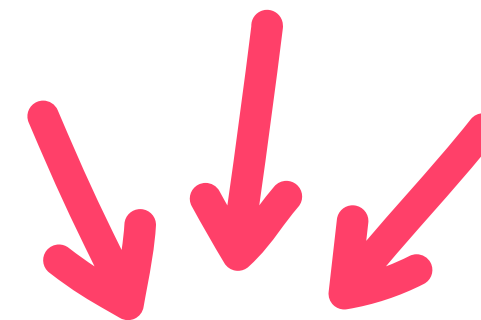
12/45取組案

既存事業含む

18/45取組案

15/45取組案

33/45取組案



焦点を絞った政策提言に

02 第2回～4回で出された取組案（R7） 交通 ①

6



- ・部活動の地域移行が進む一方で、課題が山づみ（ほぼ進んでいないのが現状）
- ・地域クラブの情報が整理されておらず、選択肢が見えにくい
- ・クラブの指導者不足・アクセス手段の不備
- ・子どもたちの「公共交通利用経験の不足」が移行のボトルネックなのでは



地域クラブ移行には「交通手段の自立」が不可欠
子どもが安心して地域に出られる環境整備を

1

全クラブ（スポーツ・文化）

を市内全域で一覧化

2

「八戸市公認地域クラブ」制度の検討

信頼できる責任者・指導者の育成と認定・資格・講習制度の導入

3

小・中学生向け「ファーストバス応援」

- ・紙チケット方式
例：切り取り式のチケット
- ・保護者への啓発・同行体験イベントも
- ・バスを初めて使う一歩を応援する仕組みを導入

02 第2回～4回で出された取組案（R7） 交通②



- 小・中・高校生は現在、ほとんどバスを利用していない
- 使わないまま成長すると、将来も選択肢にならない
- 路線維持について少子高齢化で利用者の減少はさらに見込まれ、地域によっては、路線縮小や廃止が必至
- 代替手段（例：ライドシェア）の検討が進んでいるが、若者視点の対策とはなっていない
- プロスポーツ観戦や地域イベントにもアクセス困難

「ファーストバス」体験も提案（交通①と重複）



子どもたちに「バスに乗れる力」を育てる
路線縮小に合わせて、スリムで柔軟な交通体系へ移行
魅力あるバス停への転換を図る

1 「バス停の魅力化」

- 若者が「乗りたいくなる」ような魅力あるバス停づくり（広告＋風除け等）
- 民間広告を活用した整備

2 「小中学校発の送迎型バス運行」

学校をバス停（ハブ）に見立てて、定時送迎型のバスを運行

3 プロスポーツ観戦 × 移動支援

観戦支援チケット（交通補助）

02 第2回～4回で出された取組案（R7）居場所①

8



- ラウンドワン等の大型娯楽施設は八戸での経営が難しい
- 高校生・中学生が自由に使える「居場所」が不足
- 若者の「やりたいこと」「楽しみ」が十分に反映されていない
- 地域課題がある中で、解決が求められるが、担い手不足や費用負担が壁に
- 若者の地域参画を促す仕組みがない



- 中高生が自ら企画・運営できる「ユースセンター」の設立
- 既存施設「はっち」を活用し段階的に環境整備
- 地域課題解決に若者が楽しく参加できるポイント制アプリの導入

1 「はっち」ユースセンター化計画

- 1～4階のどこかに中高生専用スペースを設置
- 勉強・カラオケ・卓球など多様な活動を中高生主体で企画運営
- 運営は地域おこし協力隊

2 「若者参加促進型地域課題解決アプリ開発

- 企業や行政の課題を「クエスト」としてアプリ上で提示
- 若者が参加して課題解決に取り組むとポイントが貯まる仕組み
- ポイントはバス券や商品引換券と交換
- 大学や県立高校も参加し、アルバイト制限などの課題を解決
- アプリ活用によるキャリア教育や職業体験の場としての展開
- 地域の若者が積極的に社会参加できるモデルの創出へ

02 第2回～4回で出された取組案（R7） 居場所②



- 公園の老朽化や利用者減少により活用度が低下
- デザイン性・SNS映えしないなど、若者が関心を持ちにくい
- 民間企業の関与も限定的で、財源面でも課題が多い
- コミュニティの活動も見えにくく、若者との接点が希薄



- 若者が自然と集まる・遊ぶ・休めるような場の整備
- 公園を拠点に、地域企業・店舗との連携による経済循環

1 Park-PFI × ネーミングライツによる公園再生

- 地元企業がプロデュースする公園空間（デザイン性＋企業PR）
- 「ばえる」「チルい」公園を若者の居場所として整備
- ネーミングライツにより地域企業の巻き込みを促進
- ポケモンパーク誘致

2 こどもMAPの展開 × 地域情報のオープン化

- こどもIT部の取り組み（MAPづくり）を八戸市全域や周辺に拡張
- 若者自身が「地域を知る・見つける」プロセスに参加
- 公園・居場所情報の見える化
- 地域情報のオープンデータ化

02 第2回～4回で出された取組案（R7）居場所③



- 行政主導の「居場所」や機会づくりは既に多数存在
- しかし、“来るのは毎回同じ真面目な子たち”
- 「表に出ない若者」には届いていない
- 地域に「カッコいい大人」「自由な発信の場」が少なく、文化として根づかない



- 真面目な人だけでなく、“イケてる”“アングラな”若者も自然と集まる構造
- 誰かに頼れたり、共感できたり、軽やかにつながる“選択肢”がある

1 “規制緩和型” 公共施設開放プロジェクト

- 行政や大学が“規制なし”で場所を貸し出す
- 法律違反以外はOK。やってみたい若者の最初の一步を支える
- 美術館バスケのような“異端でワクワクする企画”を公的に後押し

2 “イケてる大人”が活動する場を広げる支援

- 地域の面白い大人がやっている活動（店・イベント・クラブ）を可視化・支援
- 若者が“自然と集まる”大人の居場所＝型にはまらない学びの場所

02 第2回～4回で出された取組案（R7） 地域の人事部

11



- 若手職員の研修は委託しているため、研修を淡々とこなすだけになっている
- 地域と若手をつなげる“人”や“組織”が不在
- 中小企業では1人の新入社員に対して十分な育成体制を整えるのが難しい
- 人員を育てても離職してしまう



- 研修だけではなく、懇親会や異業種交流会により横のつながりができ、地域内同期として問題を解決できる
- 「街の人材創生会社」のような形で、地域の人事部のような研修や地域実践を運営・コーディネートする組織が必要

1 「まちの魅力創生人事部」への支援

- 「まち」の拠点は〇〇！拠点にいけばセミナーをやっている（インターン募集とか）
- ポータルの役目、着地する場所
- 時代の流れをキャッチし、アイデアを出す集団

2 若手セミナーの改革

- 一方的な講義ではなく、ワークショップ形式で学ぶ
- 交わることがなかった業種が出会うことができる
- ワークショップのグループには、ファシリテーターとして30代くらいの中堅職員を入れてごちゃまぜにする
- 異業種交流会の実施！行政は場所のセッティングのみ
- 年間通した合同研修をプロジェクト化

02 第2回～4回で出された取組案（R7）文化・スポーツ

12



- 祭り休暇などで窓口を閉めることは行政として難しいらしい
- スポーツ団体があることが分からない、調べる方法が分からない
- 興味があっても、ピンポイントの情報にアクセスできずチャンスを逃している
- 体育館などの公共施設が「年間予約でほぼ埋まっている」状態。使っていない日も他団体が利用できない



- 祭りを伝統文化として地域で育む
- スポーツ団体の情報が市民に伝わり選択の幅が広がる
- 親・地域・行政・学校が協力し合う仕組みができれば、もっと多くの子供が機会を得られる。

1

「お祭り休暇」の実現

- 市職員の8/1のお祭り休暇が難しければ7/31～8/4のうち1日実施にしてみる
- 2/17～2/20のうち1日をえんぶり休暇

2

公共施設の予約オープン化・シェアリング制度

- 体育館などの「未使用予約のキャンセル通知機能」を導入
- 市民や登録団体が空き状況をリアルタイムで確認できるようになる
- 地域全体で施設の利用効率を高める

03 今後の流れ 7/17～10/1まで

13

